

欧州視察報告＜ 1 1 ＞

視 察 項 目	教育・子育て施策
視 察 日 時	2016年11月11日（金） 午後0時30分～1時45分
視 察 先 名	市立成人教育学校（Komvux） 学校名ストゥディウム
説 明 者	施設教育長 マリア・ティフィローション氏
担 当	岩隈 千尋

【はじめに】

スウェーデンでは、日本の教育制度とは異なり「複線型教育」が行われている。例えば、日本では、多くは中学校→高等学校→大学という形で「単線型」の教育制度の下、進学することになるが、スウェーデンでは、社会人が大学進学を希望するのであれば、高等学校等で取得できなかった単位を成人教育学校（Komvux）で履修し、単位を取得することにより、大学へ進学することも可能となる。分かりやすく言うと、「年齢を問わず、学問へのアクセスがし易く、やり直し教育のための環境も整備されている」ということである。

スウェーデン教育における代表的な成人教育は、成人教育学校（Komvux）と国民高等学校（Folkhögskola）に大別されるが、今回の視察では、時間の制約上、成人教育学校に絞り現地視察を行った。



学校の中には、ウェルカムディスプレイが掲げられていた。



スウェーデン教育庁のホームページより引用

<http://www.skolverket.se/skolformer/karta-over-utbildningssystemet>

【成人教育と施設概要】

スウェーデンの成人教育については、19世紀の中頃に始まった。当時の形としては、公的な教育ではなく誰にでも開かれ、皆で学ぶという形だった。

そもそも、成人教育学校創設の目的は、自らの生活環境を開拓し自立していく力をつけることや、社会に積極的に一人ひとりが参画していくことであり、民主主義の意識を持った市民を育成するという観点があった。

1968年は、転換点となった年である。それまでは、参加者が何を勉強したいのかということを取り上げて実施していたが、1968年からは、カリキュラム等コースを設定し、コースを修了した者には、

公式の修了証が発行され、各人が何の専門性や技術を身に着けたのか認識できるようにした。

なぜ、公式の修了証やカリキュラム等コースの設定が求められたかについては、労働市場からの要望があったためである。成人教育学校で、何を学んだのか公式の証明書が欲しいという労働市場からの要求に応えることにより、各人が身に着けた専門性や技術を公式に証明し、労働市場と雇用を結び付けるという重要な役割を果たすことに繋がった。

以来、成人教育学校で学び専門性や技術を得た者たちを労働市場に提供することになった。つまり、雇用主が求める労働力を提供できることに繋がった。

成人教育学校の中に設けられているコースについて、以下に記す。

- 基礎学校（Grundskola 7歳～16歳の児童生徒）での履修が最後まで修了していない成人のためのコース。
- 高等学校（Gymnasium 16歳～20歳）での履修、また大学進学するために不足している単位取得を目指す成人のためのコース
- 障害を抱えた成人のための教育コース。
- 移民のためのスウェーデン語教育のコース。
- 高等学校の教育を修了した者への職業訓練コース。

ヨーテボリ市では、現在、全体で約35,000人が成人教育学校に在籍している。学生の目的については、前述したように、職業訓練を行った後に就労を目的とする者、大学進学を希望するために必要な単位取得を目指す者、また、それらとは別に、生涯学習（自発的意思に基づき学習すること）を通じて自己研鑽に励む者など、個人により千差万別である。なお、全てのコースにおいて、修了した者には、公式の資格が与

えられる。

【ストゥディウム校におけるコースの履修について】

今回視察を行ったストゥディウム校には、約3,000名の学生が在籍している。それぞれの学生が、自分の目的に沿って前述したコースを選択している。

ここでは、具体的なコースをひとつ取り上げ説明する。「介護と福祉サービス」のコースについて。

このコースは理論と実技の2つから構成されており、このコースを修了すると、准看護師の資格を取ることができる。理論を修了した者へは、その後の就職希望先に応じた選択肢が与えられる。また、実際の実技研修については、病院、高齢者施設などで行う。理論と実技の2つからコースのプログラムから構成されている。1つは、介護関係。介護学習の中には、患者への接し方やお世話の手法など、医療を学ぶ機会や福祉サービスを学ぶ機会が設けられている。また、技術的なことだけでなく、介護をする際にどういう風に人間として振る舞うべきか、患者とどう触れ合うかなど社会的な部分を補う学習の時間も確保されている。社会的な部分の具体的な事例としては、高齢在宅者への身の回りのサポートなどである。技術的なことと人間性を育む観点の両面からコースは成り立っている。

実際、どのような方が「介護と福祉サービス」を学びにくるのかというと、一部は、すでに高齢者施設等で仕事に従事している人達である。ヨーテボリ市では、資格や訓練が十分でないにも関わらず介護や福祉サービスに従事している人たちに対し、成人教育学校で学ぶように奨励している。なぜ、ヨーテボリ市が関与するのかというと、市が一番の雇用主であるからだ。ヨーテボリ市が受講を奨励しているコースでは、週に1回講習を受ける機会がある。そして、他の日は介護・福祉サービスの仕事に従事しており、仕事をしながら学習できる環境にある。

「介護・福祉サービス」のコースは、他国からの移民にとっても人気のコースとなっている。彼らは、異国の地に移り住み、これまで積み重ねてきた経歴や職歴が役に立たない場合もある。そのような時に、成人

教育学校にてスウェーデン語の学習を履修するとともに、最終的には就労するための選択肢として「介護・福祉サービス」のコースを選択することが多々ある。

また、自治体としても移民が福祉サービスに参入することは好ましいと考えている。なぜならば、スウェーデンは、国家政策として1950年代から労働力不足を補うために移民を受け入れてきたが、彼らの多くは高齢化してきている。高齢化してきた移民たちは、日常生活の中でスウェーデン語よりも母国語に回帰する傾向にあり、それ故、介護従事者が多様な言語を操ることができるのは、高齢者をサポートする意味でも有益である。

「介護・福祉サービス」のコースだけでなく、医療分野における専門的な知識や技術をより身に着けたい学生には、准看護師の資格取得後、看護師に進むプログラムや、障害者サービスに従事できるプログラムもある。また、就職訓練コースには、あらゆる職業に進むことができるように多様なコース・プログラムが学生に用意されている。

【学校の体制について】

成人教育学校には、様々な背景を持った学生たちが集まっている。スウェーデン人の学生の中には、うつ病やディスレクシア（読み書き障害・難読症）、発達障害など、幼少期に何らかの障害を抱え、学校で苦しんだ人々もいる。

また、移民の中には、紛争地域から避難してきた人たちや経済的困窮により母国を去ることを余儀なくされた方々なども存在する。

こういった、様々な事象を抱える学生たちへのサポート体制については、教員だけでなく、ソーシャルワーカーなども対応にあたっている。

更に、様々な困難を抱える学生たちが、学業を進めることができるようスーパーバイザーを設置し、個別指導を行っている。

個別指導については、安易に答えを教えるといったものではなく、課題そのものが何かということを学生自身に考えさせるよう促すような指導を行っている。それは、スウェーデン語を母国語としない移民の生徒

への指導方法として極めて有用である。

個別指導を通じて、学生たちは、自分に何が求められているのかということをも自分自身で学ぶことができる。よって、個別指導は非常に人気があり、学生たちに必要とされている制度である。

そもそも、成人教育学校創設の目的は、民主主義の意識を持った市民の育成と自らの生活環境を開拓し自立していく力をつけること、社会に積極的に一人ひとりが参画していくことであると上述した。

そのような理念の下、成人教育学校においても、一般の高校と同じように生徒会が設置され、教育に関する問題や学校環境についての課題を教員と学生がともに考え解決に導くような取り組みがなされていた。

また、学校行事として、フットボールやダンスパーティ、カフェを開催するなど学校生活を向上させるためにあらゆるアイデアを出し合い工夫する取り組みもあった。

【質疑・応答】

Q 1 : 就職に繋がるまで、成人教育学校で学ぶことができるのか伺いたい。

A 1 : 基本的には、ほとんどのコースは1年半で修了することになっている。コースを修了すると、成績の評定書と修了証が発行され、一旦、それで終わりということになっている。なお、ほとんどの生徒が就職に結びついている。

Q 2 : 昨日、高等学校を視察してきた。そこで、生徒たちの自主性を育む一環として生徒会活動について学んだが、成人教育学校における生徒会活動のシステムはどのようなものなのか伺う。

A 2 : 基本的には、一般の高校と同じシステムである。これは、スウェーデンの学校法の中で生徒会の設置については明記されているからだ。しかし、先に申し上げた通り、成人教育学

校におけるコースは、基本的には1年半しかないために、一般の高校よりも期間が短く回転が速い。よって、学生が学校に在籍する期間が一般の高校生よりも短いためにやりにくい側面もある。

【総括】

日本では、スウェーデンというと高福祉社会の国とのイメージが強い。しかし、今回の成人教育学校の視察を通じて、我々が抱いていたイメージは福祉制度の充実といった単なる一面にすぎず、高福祉社会を実現するためには様々な制度の充実がその背景にあり、その一つとして「複線型教育」「いつでも誰でもやり直しができる教育」といった教育制度の充実が自治体レベルでも図られていることが分かった。

成人教育学校の役割を考察するとき、スウェーデンの「複線型教育」は、社会保障制度のセーフティネットになりうるし、社会の教育格差を是正することにも繋がっていた。

また、充実した社会保障制度を一人ひとりが甘受するのではなく、個人個人が生活環境を整えるために、自立する力を自ら育むための教育が徹底されている実態も理解した。

自立＝就労・就職に繋げるということになるが、産業界と成人教育学校がしっかりと連携し、産業界が求める雇用がいかなるものなのか、何が求められているのか把握し学校教育の中に取り入れることが、成人教育学校の役割であると先生方は強調されていた。

冒頭では、成人教育学校創設の理念を述べた。民主主義の意識を持った市民を育成するため、多様性を尊重することに教員たちは注意を払っていた。例えば、成人教育学校には、幅広い年齢層や多様な背景を持つ学生たちが集まっている。性別や性的嗜好（LGBT など）、民族や宗教など、お互いを尊重し認め合うことを通じて、平等とはいかなるものなのか理解させることに努めていた。民主主義＝多様性を重んじる社会を構築するためには、多様性に基づいた教育制度が必要であることを認識させられた。

川崎市では、就労支援については経済労働局が所管している。本市の就労支援については、民間事業者と連携しきめ細かい対応を取るなど全国的にも先進事例として取り上げられることが多い。

しかしながら、教育的視点や職業訓練という視点となると、国・県の縦割り行政の中で、まだまだ補完できていない部分も散見される。また、本市の教育委員会も義務教育に関しては網羅しているものの、生涯学習や他局との連携は取られていない。

健康福祉関係に目を向けると、生活保護受給者に対しても、スウェーデンの場合であれば受給条件は厳しく、元気な者であれば成人教育学校などで学び、再チャレンジを促すことが求められる。しかし、日本の場合は、そこまでの強制力や受け皿は整備されていない。

今回の、成人教育学校視察で学んだことは、「教育」というしっかりとした土台に基づき高い社会保障制度を確立しているスウェーデンの姿だった。

一方で、昨今の右派勢力の台頭など、移民に対する偏見や税投入に対し否定的な考えを持つ国民が増えてきたことも制度を揺るがす懸念事項だと先生方はお話されていた。

本市においても、教育委員会・経済労働局・健康福祉局が部局横断的に成人教育等に取り組むことで、就労支援だけでなく貧困対策やセーフティネット対策に資するのではないだろうか。

今回の成人教育学校視察で学んだことを、今後の議会活動や政策提言の中で活かしていきたい。



学校施設内の説明を受ける

大規模ではないが、
充実した図書館が
設置されていた



宿題などを行うための
コンピュータールーム